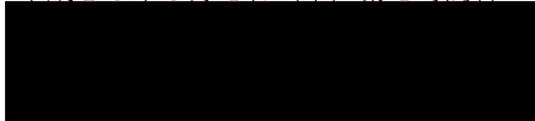


国語科学習指導案

期 日 平成16年3月4日(木) 第4時間目

場 所
授業者



1 題材について

(1) 題材観

題材となる「トロッコ」は芥川龍之介が書いた短編の小説である。主人公、良平は鉄道工事で使われているトロッコに興味を持つ八歳の少年である。少年はトロッコに乗ってみたいという観望にかられる。ある日、トロッコに黙って乗り年配の土工に叱られる(事件1)。しばらくトロッコから距離を置くが、トロッコへの興味が押さえきれない。事件1から十日後、ついに念願のトロッコに乗る。しかし、家からあまりに遠くまで来てしまい、涙をこらえて家までの道を必死に走り帰る(事件2)。

過去視点が入り、主人公の心情の読解にやや困難を招くが、情景描写のすばらしさは中学校一年の文学的な文章の教材としては最高である。生徒たちに読解のための基礎(知識・技能)を育成するのに適した題材である。

(2) 題材の系統性

国語科の系統性は、指導指導事項による系統観が望ましい。教材は指導するためのテキストであり「教科書で教える」という指導観を持ちたい。本題材で身につける言語知識・言語技能は、中学校3カ年で次表のような系統性を考慮し、熟達を図る。

言語知識	言語技術	トロッコ①	短歌②	走れメロス②	俳句③	猫③	故郷③	
		知	わ			か		
		る		か		る		
①設定の把握	①時代・場所	◎		○		○	○	
②登場人物の機能	①変格人物と対役の関係	○		◎		◎		
③視点	②作者視点・第一人称視点	○		○		◎	○	
④イメージ語	①+・-のイメージ	◎	○				◎	
	②象徴語	○		◎				
⑤かかれていることを正確に読む	①行動と心理の関係把握	○		○			◎	
	②対象と五感の関係把握(情景描写の把握)	○	◎	○	◎	○		
⑥かかれていることから類推して読む	①書かれていることと類推の関係(論理性・根拠)	○	◎	◎	◎	◎	◎	

(題材名の後の①②③の数字は学年を、○…関わる・◎…特に関わることを示す)

本題材で身につける言語知識は6つ、それを機能させる言語技能は8つである。ただし、読解においてはそれぞれの言語知識と言語技能が相互に働き合い、解決の方略となる。本時、□枠の言語技能の習得が中心となる。

2 指導観

(1) 生徒の実態

1年3組(男子20名、女子15名)は、国語科における授業態度には真摯なものがある。この一年間で知的な好奇心をもって学習に取り組む生徒が多くなってきた。

各領域別に学習の到達状況を見ると下のグラフのようである。全領域とも平均的な力を有し

領域	1	2	3	4	5
話す・聞く					
書くこと					
読むこと					
言語事項					

ていると判断している。学年全体から見ると、特に「話す・聞く」の能力、「言語事項に関する」能力がやや低い。書く、読む能力は平均的であるが、他の領域に比べ低い能力を示している。

自己学習力を育成するために「論理的な思考力」の

育成が不可欠である。また、書く力、読む力の総合関連指導を通して、機能する国語能力の育成を図っていく必要がある。

(2) 指導観

本題材は、文学的な文章の読みの力の基盤をつくる学習として位置づける。特に小説の読みに焦点をあて、小説の読み手は「心理カウンセラー」になることだと定義し3時間目をかけて、読みの3スキルを学習する。スキル1は「行動と心理の関係を分析するスキル」、スキル2は「心理を＋・－に分別し、心の移り変わりを把握するスキル」、スキル3は「場面ごとの心理を適語で表現するスキル」である。4・5時間目は、スキル4「視点と情景描写の関係から心情を豊かに読みとるスキル」の学習を实践する。また、情景描写に現れる的確な表現、豊かな表現を自分の書くことに生かすことも心がけて学習の中で関連指導を実施したい。

3 指導と評価の計画

(全5時間)

次	時間	学習活動	具体的な評価規準B	評価方法
1	1	①語、語句、語彙の理解を目的として本文を読む。	①範読や班での輪読を通して、粗筋を把握できる。	観察
		②小説とは何かを理解する。	②小説の2つの目的を説明できる。	観察
		③設定・登場人物の機能について理解する。	③設定の3つの要素と変革人物、対役が説明できる。	ノート
2	2	①行動の描写と具体的な心情描写を本文から読み取り、相互の関係を分析することで、登場人物の心情を理解する。	①主人公の行動を表現した語句と心情を表現した語句を探することができる。	ノート
			②①より行動と心理の関係を探ることができる(スキル1)。	ノート
			③①をもとに、+-の語に分類し(スキル2)、心の移り変わりを把握できる(スキ3)。	ノート
3	2 本時 1/2	①登場人物の心情を情景描写との関わりから理解する。	①情景描写に現れる登場人物の心の動きを把握することができる(スキル4)。	観察 ノート
			②視点者の五感を手がかりに、心情の現れた情景描写を探し、その心情を考えることができる。	
			③自分の書く活動に生かそうとする。	ノート

4 本時の目標

(1) 目標

- ①情景描写に現れた、主人公、良平の心情に迫る。
 - ア 良平の五感がとらえた対象に対する情景描写に着目する（スキル4）を理解することができる。
 - イ 具体的な文章の中でスキル4を使い、主人公の心情に迫ることができる。
- ②文学的な文章表現（情景描写）のすばらしさに気づくことができる。
 - ア 情景描写のすばらしさを自分の表現に生かそうとする。

(2) 展開

過程	学習活動	時間	基本発問・指示
1 理 解 す る	1 スキル4について確認する。 ①情景描写と視点者の五感の関係を理解する。	3分	○情景描写に現れた登場人物の心情は、どのような考え方で発見しますか。 ○ノートを見て確認してください。
	②空中ブランコ乗りのキキの四回転の場面の表現でスキル4の使い方方を再認識する。	5分	○「空中ブランコ乗りのキキ」の場面を確認してみましょう。 ○視点は誰ですか。 ○どんな場面の情景描写ですか。
2 理 解 を 深 め る	2 スキル4による具体的な文章の分析を行う。 ①主人公を「有頂天」にしたトロッコのすばらしさについて書かれた表現を分析する。	8分	○スキル4を使って、主人公、良平を「有頂天」にしたトロッコのすばらしさについて書かれた表現はどこからですか。 ○トロッコに乗った良平を有頂天にしたのは何ですか。
	3 キキの四回転のすばらしさ、トロッコのスピード感の表現を参考に、文章表現する。	9分	○キキの四回転のすばらしさ、トロッコのスピード感の表現を参考に、「春の一風景」を文章表現してみてください。 ○「何について」表現するかを先に決定します。 ○作品を発表してみてください。
3 習 熟 を 図 る	4 スキル4を具体的な文章の中で使いこなす。 ①良平が帰宅する場面（山場）の情景描写から、心情の移り変わりを読み解く。	20分	○スキル4を使って、山場の場面について考えてみましょう。 ○攻略のポイントは「良平が五感のどこでとらえているか」です。 ○まず、自力解決します。 ○自力解決をもとに班で話し合っ、答えをまとめてください。 ○班の話し合いの成果を発表してみてください。

4	5 本時のまとめをする ①この時間で身につけたことや感じたことを発表する。 ②次時の連絡を聞く。	5分	○この時間の成果を発表してみたい。
---	--	----	-------------------

教師の支援		具体的な評価基準	備考
○板書により、スキル4を簡単に確認する。			
○「視点者」→「心情（心理）」→「情景描写」の関係を把握しやすいよう掲示物を準備する。		○スキル4（視点者の視覚がとらえたキキの動作とその表現の関係を）を理解できる。	資料①準備
○スキル4が具体的な文章表現に活用できることを確認させる。		○トロッコのスピード（情景描写の読みとり）と有頂天という良平の心情の関係が理解できる。	
○書くことの能力は、個人差が大きい、個に応じた対応をする。			
A自力解決ができる	Bグループ解決ができる	C教師の支援が必要	
・書く題材を自分で選び、文章表現ができる。	・友だちと話し合っ、書く題材を選び、文章表現ができる。	・指導者と相談して、書く題材を選び、文章表現ができる。	
○学習が活かされている作品を選定し、発表させる。		○文章表現に比喩など（修飾語）を活用した表現が見える。	○資料②準備
○自力解決の時間確保を十分にする。 ○話し合いがスムーズに展開するように。机間巡視により支援を図る。 ○スキル4を生かした学習の成果であることを丁寧に確認する。		○良平の五感がとらえた表現に気づく。 ○情景描写の語・語句から良平の心情を読み解くことができる。	○資料③準備
5 本時のまとめをする ○この時間の学習の成果を発表する。 ○次時の学習のねらいを説明する。		○本時の目的が達成することができたか。	